

# そよ風

- 1 就任のご挨拶・退任にあたり
- 2～3 平成 29 年度事業計画・平成 29 年度主要行事計画
- 4～5 通所成人式・研修会参加報告
- 6 第 25 回東大和療育センター院内研究報告会
- 7 リハ科春の発表会・編集後記
- 8 人事異動

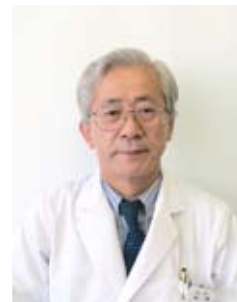
## 東大和療育センター就任のご挨拶

4 月 1 日付けで倉田前院長の後任として着任しました柳瀬です。倉田院長が築かれた運営方針を引き継ぎ、職員の皆様、利用者・ご家族の皆様と力を合わせて東大和療育センターをさらに発展させていきたいと考えております。

私は平成 23 年に都立北療育医療センターの院長を拝命し、初めて重症心身障害児者の療育にかかわらせていただきました。その後平成 24 年からこの 3 月まで府中療育センターで働かせていただきましたが、両施設における 6 年間に職員の皆様および利用者・ご家族の方々から多くのことを教えていただきました。特に改めて深く心に刻まれたことがあります。それは人は誰しも、健常であってもいかに障害が重くとも、「あなたが生きていてくれてよかった」と自分の存在を祝福されることを願うということです。このような願いが叶うよう障害児者を支えていくことが当センターの使命であり、「最も弱いものをもれなく守る」という重症心身障害児(者)を守る会の基本理念にも通じることと考えます。この使命を成し遂げるには、医療職、福祉職および事務職のすべての職員の皆様の研鑽と協働が必要となりますし、利用者・ご家族とのコミュニケーションに加え職員間の率直なコミュニケーションが欠かせません。

当センターは事業を継続しながらの大規模改修を 2 年後に控え、その前段階として今年から仮設工事が始まるなど、様々な課題を抱えています。皆様と心をつなげて乗り越えていきたいと思っております。

どうぞご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



院長 柳瀬 治

## 退 任 に あ た り

平成 19 年 6 月 1 日に辞令をいただいて院長に就任しました。今年で十年弱の歳月をこの東大和療育センターで過ごしました。光陰矢の如しという感慨を感じております。その前は同じ重症児施設の府中療育センターに勤務しておりましたので、違和感なく対応できました。この十年の間に障害福祉関係の法的制度が目まぐるしく変わったので混乱の極みだったと思いますが、職員や利用者の方たちの理解とご協力でご何とか切り抜けてこられたと思います。これから当センターは全面改修工事に向けて進んでいくわけですがその間には仮設棟へそして本棟への引っ越しと大変な状況になります。皆様協力し合って滞りなく終了させてほしいと思っています。その際には病棟編成にも影響されます。幸い職員によるあり方検討のプロジェクト委員会が稼働してより良い方向に導いていかれると期待しております。

またいずれこの施設も同様ですが、利用者そしてその保護者の高齢化の波が特に当センターでは顕著に押し寄せてきています。医師たちもかつて遭遇したことの無い医療的問題に対応しなければなりません。特に重症児者の人生と生命にかかわる根本的問題を解決していかなければならない状況に直面するでしょう。それだけでなく、日常の様々な問題が浮上ってきて解決が迫られることがあります。ご家族の方たちと職員との「親の高齢化・親亡き後を考える会」が立ち上げられているので、ますますの活動を進めていってほしいと思います。

問題をいろいろ残してセンターを去っていきますが、新しい院長を支えて職員一同よろしくお願いいたします。利用者の皆様にご挨拶もせずに失礼しましたがご容赦ください。センターと守る会の益々の発展を祈念しております。



前院長 倉田 清子

## ■ ■ 平成 29 年度事業計画 ■ ■

当センターは、重症児の年長化に対応するとともに、短期入所など在宅の重症児者への支援にも力点を置いた次世代型重症児者施設として開設されました。

運営については、開設当初から全国重症心身障害児（者）を守る会が東京都の委託を受けて管理運営を行ってききましたが、平成 18 年度以降は守る会が東京都の指定管理者として指定を受け運営しています。前年度は二回の更新を経て三回目の指定管理者として 10 年間の指定を受けました。引き続き指定管理者として次のとおり事業を推進してまいります。

- ・長期入所は、開設以来 18 歳以上の利用者が継続して利用しています。しかし、利用者の加齢などにより、人工呼吸器などの濃厚な医療が必要な利用者が増加しており、今後ともその対応やQOLの向上を図っていきます。
- ・短期入所は、長期入所者と同様、医療ケアが必要な年少の重症児の利用希望の増加に対応するとともに、新規利用者の受け入れにも力を入れ、さらなる利用率の向上を実現します。
- ・通所は、多摩地区の 10 市町から受け入れ、定員 30 名で運営します。受け入れ時間の多様化、臨時受入れの増加などサービスを充実していきます。
- ・外来は、患者の診察までの待ち日数の短縮を図るため、引き続き診療能力の向上に努めていきます。
- ・看護師を中心とした職員の確保・定着対策を進め、円滑な事業運営を図っていきます。施設理念の実現に向け、より専門能力をもった人材とコスト意識を備えた経営センスに富む人材育成を目指します。

今後長期に渡り施設を運営していくための施設本体の「大規模改修」に、着実に取り組みます（平成 32 年度改修終了予定）。

以上、今年度もセンターは、関係機関と連携し、より良い利用者サービスの提供を実現するため、職員が一丸となって事業推進に取り組んでまいります。

### 1 運営方針

- (1) 利用者ニーズや社会情勢の変化などを迅速に把握し、指定管理者制度を活かした効率的、効果的な事業運営を進めます。
- (2) 中期計画を着実に推進し、安全で安心できる、より質の高い療育サービスを提供します。
- (3) 短期入所の利用率向上、通所のサービス向上などを通じて、在宅支援事業の一層の充実強化を図ります。
- (4) 利用者家族などへの丁寧で分かりやすい説明と接遇の向上に努め、納得と信頼の施設の実現を目指します。
- (5) 職員の能力向上に向けた制度づくりを進め、高度かつ専門的な知識、技術を身につけた人材を育成していきます。
- (6) 関係法令及び各種規則・マニュアルなど、定められたルールを遵守し、正確で迅速な情報の共有化のもと、公平かつ公正に業務を遂行します。

### 2 事業内容

- (1) 入所・入院（医療型障害児入所事業・療養介護事業）

### 定床 128 床

- ① 長期入所は 92 床で運営します。
- ② 短期入所は 28 床で運営します。
- ③ 医療入院は 8 床で運営します。
- ④ 短期入所、医療入院は枠にこだわらず、日程調整により空床を利用して多くの在宅者が利用できるよう、病床利用率の向上を図ります。

#### (2) 外来診療（診療事業）

- ① 事業規模は一日当たり 100 名ですが、引き続き、受診の要望に可能な限り応えていきます。
- ② 診療室及び安全な歯科治療のための手術室の効率的な運用により、待ち日数の短縮を図ります。
- ③ 地域の医療機関との連携を促進し、心身障害児者の専門医療に対する要望に十分応えられるよう努めてまいります。

#### (3) 通所（生活介護事業）

- ① 在籍者 39 名、一日受け入れ人数 30 名で運営します。
- ② ご家族の負担を軽減するため、通所バスは 5 台で送迎を実施します。

#### (4) 在宅支援

医療ニーズの高い在宅障害児者の増加と、地域で共に暮らしながら障害児者を支えているご家族の高齢化に配慮して、在宅支援施策のさらなる充実に努めます。

#### (5) 地域社会との連携

- ① 市町村や特別支援学校などの健診事業への協力を通じて、地域医療の充実と向上に寄与します。
- ② ボランティアの積極的な受け入れや入浴施設・プールの施設開放事業の推進、地域への普及啓発活動を通じて、障害児者を地域で支え合う基盤を築いていきます。

## ■ 平成 29 年度主要事業計画 ■

### 病棟・通所行事

- |          |               |                              |
|----------|---------------|------------------------------|
| ●大行事     |               | 1 季節の行事                      |
| 1 秋祭り    | 10 月 14 日（予定） | 七夕、夕涼み、お月見、節分、バレンタインデー、ひな祭り等 |
| 2 クリスマス会 | 12 月（号棟毎）     | 2 バイキング                      |
| 3 成人式    | 1 月 19 日      | 年間 1～2 回、部署毎に企画し実施する。        |
| 4 施設交流会  | 5 月 19 日      | 3 病棟合同活動                     |
| ●小行事     |               | 昼食会、その他                      |

### 院外療育活動

- 1 第 1 病棟 8 回  
品川アクアスタジアム・浅草雷門・かたくりの湯他
- 2 第 2 病棟 9 回  
サンリオピューロランド・笛吹川フルーツ公園・瀬音の湯他
- 3 第 3 病棟 8 回  
東京スカイツリー・サンシャイン水族館・ららぽーと立川他
- 4 第 4 病棟 6 回  
群馬サファリパーク・味覚狩り・サンシャインプラネタリウム他

### ボランティアによる音楽会

- 1 東京都立東大和南高等学校吹奏楽 4 月
- 2 多摩スマイル吹奏楽 6 月
- 3 駒澤大学高等学校吹奏楽 10 月

■日程は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

## 通所成人式



通所係保育士 杉山 陽子

今年度通所では S. S さん、T. I さんのお二人が成人になりました。1 月 20 日に、お二人の成人式が行われました。成人式の出席をととても楽しみにされていた、お二人とご家族の皆さん。当日は体調を崩すことなく元気に、そしてお二人ともに凛々しく袴姿で出席してくださいました。

また当日は、お二人の恩師である小平特別支援学校、村山特別支援学校からも先生たちがお祝いに駆けつけてくださいました。

プレイルームには大きな花瓶に生けられた豪華なお花と、通所利用者のお母様が制作されたフラワーアレンジメントのお花が飾られ、多くの方々が出席してくださいました。

10 時 40 分、倉田主査のピアノ演奏「カノン」が始まるとお二人が入場されてきました。お母様とお二人の入場です。皆さんの温かい拍手に迎えられ、お二人もちょっと緊張している様子でした。

まず、鈴木副院長の「開会の辞」から、「新成人者スライドショー」が始まりました。生まれてから、通所に来るまでの成長の様子をご家族からお預かりした写真とコメントを交えて紹介しました。



## 平成 28 年度全国重症心身障害児者施設職員研修会

### 「看護管理研究会コース」への参加報告

看護部長 桑原 光代

平成 28 年 11 月 30 日(木)～12 月 2 日(金)の 3 日間、東京ブロックが担当となりホテルアジュール竹芝にて、全国 105 施設、135 名の看護管理者が参集し開催されました。

全体テーマは、「ヒューマンケアに向き合う看護をめざして」とし、秋津療育園元副園長の富永孝子氏から療育の先駆者の小林提樹先生・糸賀和夫先生・草野熊吉先生・大島一良先生などの思いを引き継ぎ、長い間療育に携わった貴重な経験談でした。日本看護協会理事・福井トシ子氏からは、重症心身障害児者施設での看護管理者としてのマネジメントについての力強い言葉、東京都立墨東病院元副院長渡辺とよ子氏より NICU から始まる家族支援について、國學院大學名誉教授平林勝政氏より重症心身障害児者の意思決定についての講演でした。

パネルディスカッションでは、「最後までその人らしく」のテーマとして、家族を代表して東京都重症心身障害児(者)を守る会会長安部聖子氏よりわが子を通しての家族の思いを、在宅支援の立場より同じく守る会療育相談センター支援係長等々力寿純氏から本人や家族の思いを大切に行動することの重要性、NPO 法人あおぞらネット訪問看護ステーション「そら」所長木内昌子氏より在宅見取りの体制作りの課題。施設側からは都立府中療育センターの小児科部長福水道郎氏は、障害者としての人権や臨床倫理を踏まえた終末期医療について、緩和ケア認定看護師荒谷智子氏は疼痛緩和の事例を通して高齢化・重症化する利用者にとどのように向き合うべきかの内容でした。

最終日は、「重症心身障害児者の尊厳を守るために看護管理者として今何をすべきか」についてグループ討議を行い活発な意見交換ができ、企画側としてもとても有意義な 3 日間でした。

## 「医療技術管理コース」への参加報告

在宅支援室 勝間 裕美

事務部門の施設管理研修に先立って、11月23日(水)～25日(金) 医療技術管理コースが開催されました。当センターからは、亀井心理士、菊池歯科衛生士、勝間医療ソーシャルワーカーの3名が参加しました。

基調講演では、堺市立重症心身障害センター長 児玉和夫先生から「重症心身障害の施設に迫られていること 医療的ケア児と療養介護の見直し」と題して、特例措置である児者一体運用が継続されるためには、児の延長としての療育ではなく大人としての「者の療育」の取り組みの蓄積をアピールしていくべきという問題提起とご提案がありました。次いで堺市立総合医療センター外科部長 長井美樹先生は「新たな誤嚥防止術 喉頭閉鎖術と摂食への意義」と題して、喉頭閉鎖術狩野法の実践報告を行って、その技法の普及を推奨されました。

二日目は各分科会討議でした。心理分科会では亀井心理士他2名が講師となって「重症心身障害児者施設における心理士の役割」について活発なディスカッションを行いました。

歯科衛生士分科会は少人数職場なため、7施設8名の参加でした。このような機会自体が少なく、貴重な情報交換を行うことが出来ました。ケースワーカー部会では、『障害者差別法』に基づく「合理的配慮」について意見交換をしました。今後の取り組みとする施設が大半でした。ハード面ソフト面での具体的な積上げをどのように行っていくかが各施設の課題となっています。外部講師を招いて研修を行い、意識向上と共通理解を着々と図っている施設もあり、刺激となりました。最終日は各分科会の報告とまとめを行いました。

このように重症心身障害児者施設の多くの職員と交流し学び合えることが出来ましたことは、スタッフ始め各関係部署のご協力の賜物と改めて感謝しております。なお、今後も各専門分野から継続して参加ができるようなシステムになると良いのではと思います。

本紙は春季号なため余談ですが、紅葉真っ盛りのお阪を堪能することも出来ました。

## 「施設管理研究会コース」への参加報告

事務部 高藤 秀丞

2017年1月25日(水)～1月27日(金)の3日間で全国重症心身障害児者施設職員研修会に参加してきました。有識者による重症心身障害児者に関する講演や、昨年起きた熊本の地震や事件を踏まえ防犯・防災対策など多岐にわたる講演と、各施設による分散討議(分科会)を受講してきました。普段の業務のなかで重症心身障害児者に関する法整備や法改正に向けての動向など大きな流れについて捉えることがなかなかできないので、自分の業務がどこに繋がっているかを理解でき、今回の研修はとても勉強になりました。また、防犯意識ということで昨年当センターでも導入した刺叉の使い方や護身術などについての講習もあり、いざという時一人ひとりが利用者や職員自身の身を守るために知識や技術の習得をすることが大切だと感じました。

分科会では他施設と意見交換を行いました。普段交流する機会があまりないので、他施設での取り組み方を聞いて参考になりました。ちなみに当センターは東京都主催テーマ別改善運動院内発表会で発表し、敢闘賞を受賞した腰痛予防対策DVDの話や独自に作成したチェックシートを使用していることを報告させていただきました。

今回の研修で貴重な話を拝聴でき、また、他施設とのつながりもできるなど多くのものを得ることができ、有意義な研修になりました。今回学んだことを業務に活かせるよう努力したいと思いました。

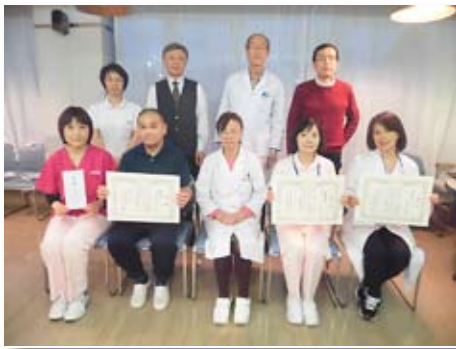
## 第 25 回 東京都立東大和療育センター院内研究報告会

開催日：平成 29 年 2 月 22 日 (水)

当センター開設当初から開催している院内研究報告会も、今回で第 25 回目を迎えることとなりました。毎年、日々の業務改善状況を確認しつつ、研究成果の発表を通して、学術的資質の向上と院内外の評価を受ける機会としております。

今回の院内研究報告会は、院内から 8 演題の口頭発表となりました。

特に優秀な研究については、外部学会等への発表及び論文を専門誌に発表するようにしております。近く全演題を論文の形で補正し、「東京都立東大和療育センター研究報告集 第 25 巻」として発刊する予定となっております。



### <最優秀賞>

気管切開利用者への超音波ネブライザーによる気道内加湿及び排痰に対する有効性  
看護部呼吸専門研修グループ 林美和子 他

### <優秀賞>

「焦り」に関する一考察  
第 1 病棟 難波正弘 他

### <努力賞>

当センターにおける認知発達段階別グループ指導の意義  
リハビリテーション科 亀井真由美 他

### <その他の演題>

重症心身障害児（者）の壮年期における脳血管障害 4 例の検討  
医局 西條晴美 他

尿路感染症を繰り返す重症心身障害児（者）に対する排便ケアの工夫  
第 4 病棟 白井雄介 他

重症心身障害児（者）の自己刺激行動に対するアプローチの検討  
第 2 病棟 西村弘太郎 他

自傷行為を行う重症心身障害児（者）へのアロマセラピーによるリラクゼーション  
第 3 病棟 高橋達也 他

重症心身障害者に対する英国式リフレクソロジーの効果  
第 4 病棟 高井直人 他

## リハ科のイベント「春の発表会」

リハビリテーション科 栗山 康子

ようやく暖かい陽気になってきた 3 月 7 日、今年度も春の発表会を開催しました。

春の発表会では利用者さんがリハビリテーション科で行っている活動の成果を披露しました。楽器演奏や歌の活動を行っているグループでは「手のひらを太陽に」「上を向いて歩こう」の曲をピアノ伴奏に合わせて楽器演奏を行いました。会場の皆さんも一緒に歌い、楽しく盛り上がりました。

見る、触れる、持つなど五感を使った活動をしているグループではスイス民謡の「ベギスダンス」という曲に合わせ、カスタネットで手合わせをしながら踊りました。また、話し合いの活動を行っているグループでは懐かしの刑事ドラマの役に扮してオリジナルの刑事ドラマを披露しました。「太陽にほえろ」の石原裕次郎や「Gメン75」の丹波哲郎などをすっかり役になりきって楽しく演じていました。その他、高級サロンの雰囲気です頭皮マッサージ、歩行器での歩行を披露したり、TV で流行った恋ダンス…と今年もたくさんのプログラムがありました。

スペシャルゲストとして古楽器トリオの方が演奏してくださいました。やわらかい音色が心地よく会場に響き、うっとり聴き入っている方、笑顔がみられる方などそれぞれ楽しい時間を過ごすことができました。また来年もお楽しみに！



### 編集後記

先日、自宅で写真の整理をしていたら、子供達が小さい頃の写真が出てきました。あの頃は「パパ〜♪」と駆け寄ってきていたはずが、今となっては…。まっ、これからも元気で育ってくればいいかと思ったある日の休日でした。(H・M)

今年も桜の開花とともに春が訪れましたね。毎年この時期が来るとなんだか無条件に嬉しい気持ちになります。新しい職員がセンターに入職して一緒に仕事ができるのも楽しみにしたいと思います。(T.T)

# 人事異動



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風第 88 号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成 29 年 4 月 30 日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10

☎ 042-567-0222

印刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031